

文理大生 高齢化地域で交流

大分市で
活動報告

【大分】日本文理大工学部建築学科の「地域体験交流活動」報告会が13日、大分市一木の同大であった。地域の課題を解決できる人材を育成する授業の一端。

高齢化が進む同市佐賀関、豊後大野市大野町土師の両地区で研修した1年生約80人が参加。街の魅力探しや環境整備など、地域を知るために取り組んだ活動を班ごとに発表した。

土師地区で研修した班は住民にスポットを当て、買



農作業の手伝いなど活動の様子や感想を発表する学生

い物事情などの暮らしづりを紹介。手作業での稲刈り、

掛け干しなどを体験しての感想や見つけた課題を挙げた。田中悠一朗さん(19)は「重労働の作業や生活の不便さなど現地で話を聞き、実際に体験しないと分からないことがたくさんあった」と話した。

来年度からは具体的な提案や実践に取り組む。土師振興協議会の田尻高二事務局長(72)は「中山間地農業の現状を理解してもらえた。新しい発想で地域を支えてほしい」と期待した。

(玉井美智子)